

情報ファイル

まちづくり最前線——都市計画コンサルタント協会

協会レビュー編集委員会代表 須永 和久氏(計画技術研究所 代表)

情報発信して地位向上 知りたいトピックスを特集で紹介

都市計画コンサルタント協会(今野博会長)は新たな広報誌「協会レビュー」を昨年末に創刊した。都市再生、地域の町おこしなど都市計画コンサルタントには様々な役割が求められている。その一方で、都市計画コンサルタントに対する社会的な認知度は必ずしも高いものではないというのが実情だ。広報誌を通じて市民社会に何を訴えるのか。協会レビュー編集委員会代表の須永和久氏(計画技術研究所代表)に聞いた。

■広報誌発刊の狙いは
「一般の人たちに都市計画コンサルタントの役割を知ってもらうのが目的。もちろん、会員企業が読んで役に立つものでなければならぬが、まずは一般の人が読んで分かる内容になるよう編集した。実はこれまでも年に4回、協会の行事や予算などを掲載する協会ニュースを発行していた。しかし、速報性がないなどの理由で電子メールの配信に切り替えた。そこで協会ニュースをどうしようかということになり、PR主体の媒体にリニューアルしようということになった」
「一昨年の10月ごろに若手・中堅の技術者を中心に編集委員会を発足させ、内容を検討した。忙しい中、良くやったと思う。年に2回は発行したいと考えている」



■創刊号では「景観緑三法」を特集した

広報誌「協会レビュー」を発刊

「日本で初めての景観についての規制となる景観緑三法は、今後の都市計画に大きな影響を与える。会員企業も一般の人も知りたいトピックスだ」ということで特集のテーマに選んだ。内容もただ法律を紹介するだけでなく、国土交通省の担当課長にインタビューするなど踏み込んだものにした」
■都市計画コンサルタントというワード整備のコンサルタントという印象があるが、街づくりにはソフト面のサポートも必要だ。

「これからの都市計画コンサルタントにはソフト面の提案力が問われるだろう。協会レビューの編集委員会でもそうした意見があり、ユニークな街づくりを取り上げようという企画があった。創刊号では実現しなかったが、次号では取り上げる方向で検討したいと考えている」
「都市計画や街づくりには技術が必要。コンサルタントは技術を磨くべきだ。役所に言うことをまとめるだけでなく、地域の声を拾い上げ、より良い街を造る努力をすべきだと思う。そのためには一般の人に存在を認知されなければならない。街づくりや都市計画は世の中で必要とされているもの。協会レビューを通じて都市計画コンサルタントの地位を向上させたい」

■協会レビューの今後の企画は。
「次号では全国の都市再生モデル事業の紹介やまちづくり交付金のその後についてレポートしたい。また会員企業の紹介やユニークな街づくりも取り上げたいと考えている。内容が盛りだくさんで、仕事の合間にというのも大変だが、都市計画コンサルタントの意見や考えを社会に発信し、協会活動を活性化するためにも良いものにしたと思うている」。